

随想

## 20年目のクラス会で感じたこと

鎌田 憲子

先日大学時代の女性だけのクラス会で京都へ出かけました。20年目の節目の年という事で、柊家という有名な料理旅館に泊まり、京料理を食べ、夜遅くまでおしゃべりをして過ごしました。

我々の学年は66人でしたが、女性が11人と比較的多かったにもかかわらず、超個性的な人間がいなかったせいか、全員が一グループという雰囲気です。6年間を過ごし、卒業以来一年も欠かさず女性だけのクラス会をつづけています。全員参加というのはなかなか困難ですが7、8人が必ず参加し、その年に研究会や家庭の都合で参加出来なくても次の年には参加するというように、ほぼ皆勤という数名を除いても全員の出席率がほとんど同じという若干不思議な集まりです。

私ともう一人を除いて9人が結婚していますが、一人も脱落せずに仕事を続けています。独身の私ともう一人はともかく、結婚している9人のうち親と同居して手伝ってもらっているのは3人だけで後の6人は夫婦だけでずっと頑張っていました。もちろん、回りの人々の大きな協力のもとでやっていけたのだとは思いますが、毎年のクラス会で彼女たちの頑張りようを見ていつも感心していました。女であり、母であると同時に医者であるという心意気が彼女たちを頑張らせているのだと思います。

全体でひとグループといっても小さなグループはありましたので、私がいつも一緒にいた3人組のうちの一人は、よく「私は家が医者だったので何となく医学部に来てしまった。だから卒業したらさっさと結婚して子供を3人作って家庭の主婦になるんだ。」とっては、私と「税金の無駄使い」とやり合っていました。私は私でいきがって「家庭と仕事の両立って難しいだろうか。」などと分かったようなことをいっていました。私は結局両立を心配することもなくずっと一人で過ごしてしまいましたが、彼女はすぐに結婚して子供も三人作ってしまったにもかかわらず、ずっとやめることなく仕事をしています。子供が小さいうちは仕事をセーブしていたようでしたが子供が大きくなったいまは本当に東奔西走の毎日を送ってバリバリ仕事をしています。クラス会の時に「昔の

希望はどうしたの？」とからかいましたら、「私が家の中にじっとしてることができないくらい分かってるじゃない。」とけろっとして、「そんなことより、私は〇〇さんの方が結婚したら仕事をやめるんじゃないかなと思っていただけ、彼女も頑張ってるよね。」などというのです。そういえば〇〇さんも卒業と同時に結婚して子供を保育園に預けながら仕事を続けていました。クラス会で「よく頑張るね。」という「今はいろんな人に迷惑かけてると思うけれども、今やめるとずっと後悔すると思うから。」とそれほど大変そうでもなく言っていました。今は開業していますが一人で頑張りを続けています。

結局結婚しなかった私が一番安易な道を歩いてきたようです。

それはともかく、女が仕事をするということに対しては、いまでも多くの制約があります。女性自身の側に問題のあることもあるにはありますが、仕事を続けやすい環境を作ってあげようという努力が社会の側に欠けていることも事実です。男性が病気で休むことに対しては何も言わないのに女性が産休をとることに対しては罪悪のように非難する上司はかなりいます。私の友人たちは誰もがその休んだ分の埋め合せを何とか働ける時にしようと努力していました。その努力こそが大切なことだと思いますし、そういった社会になってこそ、男女を問わずその能力が発揮できるようになって、才能の無駄づかいがなくなるのではないのでしょうか。男と女は同じではないと思っています。少なくとも私はそう思いますし、その違いを分かって上手に使ってくれる上司の下で働くのが一番良いことだとも思います。私もそろそろ部下を持つ年齢になってしまったようですが、そんな上司になればいいなと思っています。(1991.11.6.)

(名古屋大学医学部助教授・附属病院放射線部)